



オピオイド鎮痛剤

メサペイン®

緩和ケア内科 部長

小島 美保

日本緩和医療学会緩和医療専門医

日本医学放射線学会放射線診断専門

日本医学放射線学会研修指導者

マンモグラフィー検診制度管理委員会認定読影認定医

臨床研修指導医





メサペイン錠[®] 5mg・10mg (メサドン塩酸塩錠)



効能・効果



他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な中等度から高度の癌性疼痛における鎮痛

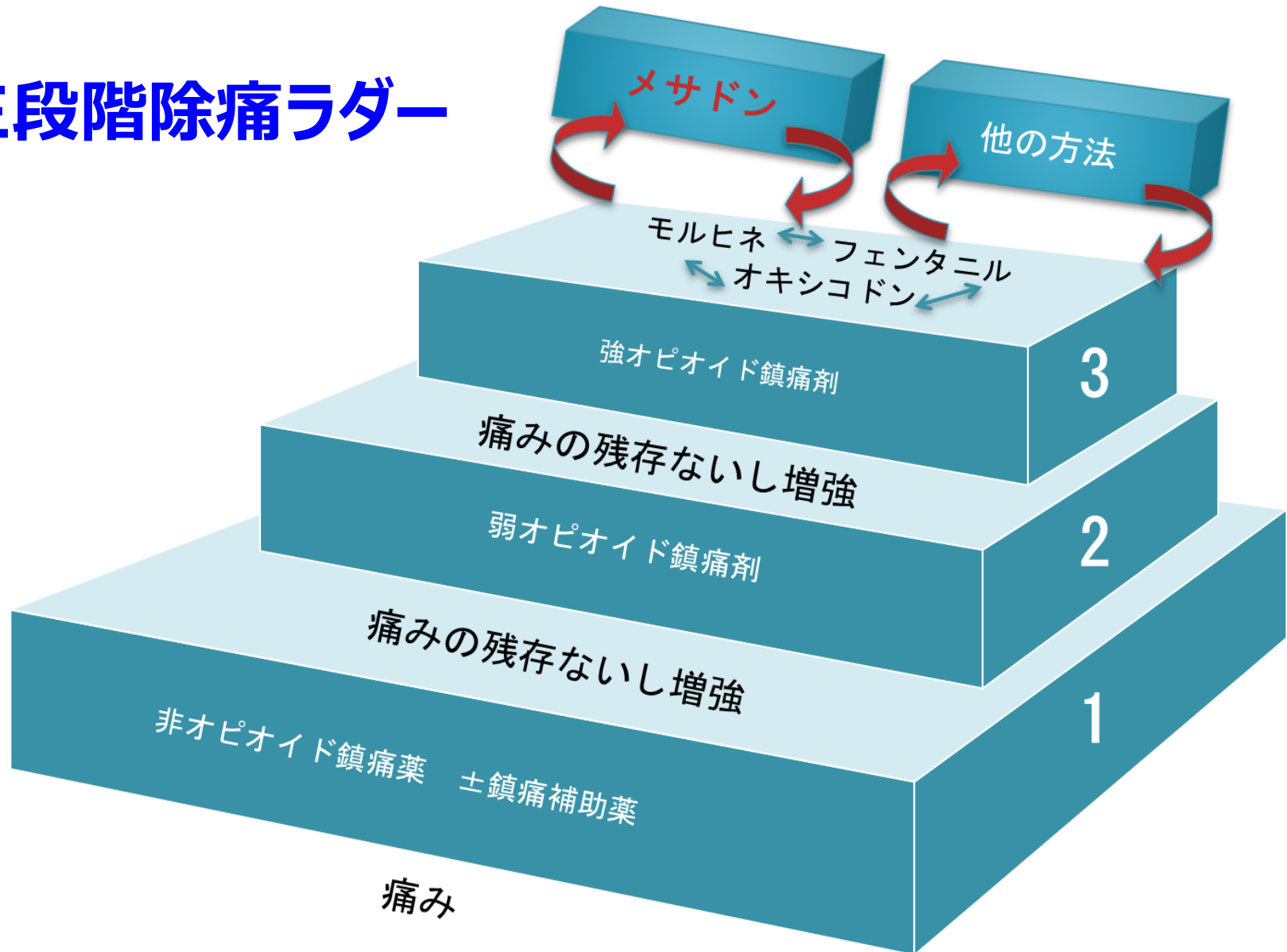
〈効能または効果に関連する使用上の注意〉

他の強オピオイド鎮痛剤の投与では十分な鎮痛効果が得られない患者でかつオピオイド鎮痛剤の継続的な投与を必要とするがん性疼痛の管理にのみ使用すること

(2012年承認発売)



三段階除痛ラダー





用法用量

- 他の強オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用
- 経口モルヒネ量60mg/日未満のオピオイド鎮痛剤からの切り替えは推奨されない
- 以前に使用していた強オピオイド鎮痛剤の用法用量から換算してメサドン塩酸塩として1回5mg～15mgを1日3回投与から考慮する
- レスキューとしては既存の強オピオイドの速放性製剤を設定する



メサドンの特徴

- 経口投与において生物学的利用能が高い
 - 海外では経口、シロップ、座剤、注射がある
 - 日本では経口投与のみ；内服できなくなると困る
- 活性代謝物が存在しない
 - 腎機能低下症例でも使用できる
- 半減期が長く個人差が大きい：約37時間
 - このためやや調整が難しい
- モルヒネと比べ高力価
 - オピオイドが高用量になった場合に有用
- NMDA 受容体拮抗薬としての効果を有する
 - 神経障害性疼痛に有用かも



メサドンの適応となった痛みについて

- **内臓痛（消化器系癌に見られた）**
 - 膵癌や腹腔・後腹膜リンパ節転移による上腹部痛
- **体性痛**
 - 骨転移痛（体動時に増悪する痛み）
 - 肺癌の胸壁浸潤
 - 乳癌の皮膚潰瘍形成
 - 頭頸部癌の局所再発による痛み
- **神経障害性疼痛（体性痛と混在）**
 - 脊椎骨転移・浸潤から脊髄に癌が浸潤しその神経支配領域にみられる痛み
 - 頸、腕、腰仙部神経叢に浸潤することによる痛み



メサドンの副作用

- 一般的なオピオイドの副作用 眠気、悪心、便秘
- 重篤な副作用として
 - QT延長：使用前に心電図を確認（TdP）
 - 薬物相互作用も確認
 - 100mg以下の使用量であれば過剰な心配は不要
- メサドンへの切り替えは早期に検討できるとよいのかも
 - 病状が進行してから導入すると鎮痛効果が得られても内服出来なくなってしまうたりとベネフィットの期間が短い
 - 高用量からのメサドンへの切り替えは困難なことがある



まとめ

- **メサペインは通常のオピオイドの増量で効果が得られない症例において、メサドンのリスクをふまえた上で本剤の投与が適切と判断された症例に使用を検討します。処方医師、調剤薬剤師のeラーニングの受講、登録が必須です。**
- **原則的には入院で使用を開始し、安定したら外来で処方できます。外来での用量調整は可能です。**

名古屋掖済会病院から痛みをゼロに！！

疼痛緩和カウンセリング外来もやっています

